

私たち、熊本県立大学日本語教育研究室は、文学部に所属し、日本語日本文学科、英語英米文学科、および、大学院文学研究科日本語日本文学専攻の学生を対象に、日本語教師の養成をしています。

学部の授業は、1年生、2年生の日本語教授法、2年生からの演習、3年生からの特殊研究、および、現代日本語の分析、日本語教育評価法、日本語教育教材研究が主要な科目で、2年、3年、4年生の演習履修者は、各7人ほど、そして、博士前期課程の学生が7名、後期課程が2名、韓国からの交換留学生3名、ベトナム人と中国人の研究生が各1名、研究室に所属しています。

演習の授業の中心は、教育実習の準備と実施、振り返りで、短期研修で来学した韓国人学生への日本語教室、熊本市内の小中学校に通う日本語支援を必要とする児童、生徒のための夏休み日本語教室、韓国、中国、インドネシア、ポーランドの大学、米国の高校での日本語の授業を行っています。

熊本市国際交流振興事業団との共働は15年以上になり、ここ数年は熊本市在住の生活者としての外国人のための教材を卒業論文として作成しています。



熊本県立大学 日本語教育研究室

教授：馬場良二 babaryoj@pu-kumamoto.ac.jp

※「今すぐ使える熊本日本語」係

メールアドレス bunkacho.kumamoto@gmail.com

Facebook <https://www.facebook.com/kumamoto.nihongo?fref=ts>

事業実施概要

事業名称	日本語教室を通じた多文化共生促進事業
地域の課題	熊本市周辺の外国人住民数は増加傾向にあり、日本語教育等の支援も充実してきているが、地理的条件からそれらの支援を受けられず、また地域の日本人住民とのかかわりがあまりないため、防災や生活上のルール・マナーなどの基礎的な情報を得ることができない状況下にある人々が点在している。
事業の目的	○熊本に根差した生活日本語教材を作成、普及させる。 ○熊本市地域在住の生活者としての外国人に熊本で暮らすための生活日本語を教授する。 ○日本人に多文化共生の意識づけをし、外国人との交流のきっかけを提供する。
事業の概要	日本語教育の実施
	名称：今すぐ使える熊本日本語 目的：熊本県内の生活者としての外国人が、快適で安全に暮らしていくために必要な生活日本語を、本事業の人材養成研修修了者との触れ合いの中で手軽に楽しく学べる場を提供する。 対象：熊本県内全域、主に、熊本市東区、中央区、菊陽町で生活する外国人。 人数：61人（主な出身・国籍：フィリピン、中国、台湾、韓国、アメリカ） 時間：2時間×10回（週2回実施）×3期（総合計：30回、60時間） 内容：学習教材を使用し、受講者が人材養成研修修了者と交流しながら生活日本語を学ぶ。
	日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
	名称：多文化共生人材の育成 目的：県内全域から研修生を募り、地域の多文化共生促進に寄与する人材を養成する。 対象：熊本県在住の日本人、外国人。 時間：30時間（座学：15時間 授業フィードバック：15時間） 人数：11人（出身・国籍：日本） 内容：在日外国人の現状等について座学で学び、日本語教室で実際に日本語を教えながら、外国人参加者と触れ合い、交流する中で、多文化共生への意識を高める。
事業の概要	日本語教育のための学習教材の作成
	名称：『「生活者としての外国人」のための日本語教材』改訂版 目的：本学日本語教育研究室が熊本市国際交流振興事業団と協力して作成した『「生活者としての外国人」のための日本語教材』を本プログラムの日本語教室のカリキュラム用に改訂。 対象：「今すぐ使える熊本日本語」教室受講者。初級。母語は限定しない。 構成：23章、145ページ。緊急時編（地震と台風）、病院編、仕事編、買い物編、外食編、公共交通機関編と学校編からなる。
成果と課題	日本語教室・人材養成研修ともに、受講者の満足度は高く、教室を続けてほしいという声が聞かれた。しかし、「やさしい日本語」の実践や、講座内容や教室活動に関する参加者の理解度において課題が残った。
発表者から一言	平成26年度を取組を説明するとともに、そこから得られた成果、課題、それを受けての本年度を取組と中間報告を、前年度と本年度の使用教材、チラシ等の資料をお見せしながら発表いたします。